

若者UP

検索

www.wakamono-up.jp

高卒後10年間のフリーター生活を経て 念願のプログラマへ。

株式会社ダンクソフト ● 柳沼 義智さん (32歳)

僕の心のなかに 「プログラマになる」という 選択肢が生まれた

僕は、高校を卒業してから、ずっとプールの監視員のアルバイトばかりをやってきました。プールが休場になって暇なときに、プログラミングを独学で勉強したこともあり、もともと興味があったんです。でも、独学ではまったくわからないところがあったりして……。結局、断念してしまいました。「働きたい」という気持ちを抱え、訪れたちようふ若者サポートステーションで、MIC (Microsoft Innovation Center) のプログラミング研修のことを聞き、参加を決めました。MICのプログラミング研修は、僕にとってはとても難しいものでした。でも、楽しかった。まったくプログラミングのことがわからない状態で行ったので、技術的なことを修得できたという感じではなかったのですが、「こういうことを仕事にした」と思えるようになりました。

研修時に、ダンクソフトでインターンもさせてもらい、ますます「プログラマになりたい」という思いが強くなりました。簡単なアプリを作ったんですが、自分でプログラミングしたもの、思い通りに動いたときはホントにうれしかったんです。

さまざまな人との 出会いがあって 楽しく働いている自分がある

プログラミングをはじめたばかりですが、れど、将来的には「わからないところは、あいつに聞いてみよう」と思ってもらえるような、頼りがいのあるプログラマになりたいと思います。毎日毎日が勉強です。入社してからの1年間はものすごく早く流れていきました。勉強もさせてもらいながら、せめて足手まといにならないようについていくのに精一杯でした。でも、それを苦にしたことはないんです。「辞めたい」と一度も思ったことがありません。ちようふ若者サポートステーションの

方、MICのプログラミング研修で出会った方、それからダンクソフトの星野社長やみなさんとの縁があったおかげで、今は働けているんだと思います。

●株式会社ダンクソフト代表取締役

星野 晃一郎さんからのメッセージ

インターンのときから見えますが、まじめで、吸収力もある若者です。ただ、きっかけがなくて正業に就けなかっただけだと思いましたね。

私自身も、大学を卒業しても正業に就かず、音楽で食っていこうと思っていたところがあります。そんな自分自身の経験から見れば、これまで生業に就いてなくても働くうえで大きな違いはないと思います。むしろ、彼の人となりを重視して、うちで働いてもらうことにしました。



▲左は、株式会社ダンクソフト代表取締役 星野晃一郎さん。

高校卒業後、約10年間、プールの監視員のアルバイトを続けてきたという柳沼さん。30歳を前に「このままじゃいけない」とハローワークで職を探したとき出会ったのが、ちようふ若者サポートステーションでの若者UPプログラムでした。プログラミングに興味があった柳沼さんは、MICのプログラミング研修に参加。研修時のインターン先である株式会社ダンクソフトに正社員として入社することになりました。入社して1年が経つ柳沼さんに、フリーター時代のこと、就職に対する思い、そしてこれからのことを聞きました。